令和6年度　江戸川区立松江第三中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○素直で明るい、心豊かな生徒を育てる（素直で豊かな心） ○自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる（学びと勤労） ○責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる（責任と規律）		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○生徒が通いたい学校　保護者が通わせたい学校　地域が応援したい学校　教員が働きたい学校 ○どんな状況でもたくましく生き抜く生徒　社会に出て、いろいろな人から自然に可愛がってもらえる生徒 ○信頼される学校づくり　教職員の輪（和）　地域との輪（和）　家庭との輪（和）
前年度までの本校の現状	成果	ここ数年のコロナ禍でも、生徒たちは落ち着いた学校生活を送り、自主的な取り組みを数多く進め、学校行事・委員会・部活動等も充実した活動にすることができた。挨拶や時間を守る等の基本的生活習慣も身についてきている。	課題	・不登校生徒は減少しているが、一定数いるので、学校としての組織的な対応を講じる必要がある。 ・特別な支援を要する生徒への対応として、エンカレッジルームの充実と組織的な取り組みを進めている。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 ・ICT（ミライシード等）を活用した学習活動の推進 ・学習コンテストを実施（年３回）	・生徒、保護者学校評価で肯定率９０％ ・生徒、保護者学校評価で肯定率９０％ ・合格率７０％以上	C	B	C	・学びあいの場面の設定 ・授業の目当てや目標の設定 ・振り返り場面を常に指導案に入れるよう心がける。	B	生徒が主体的に学習に取り組む工夫がされている。	B	３学期から授業終了５分前にチャイムを導入し、振り返りとまとめの時間を意識することができた。	B	生徒が落ち着いて学習に取り組めている。	５分前チャイムでの振り返りとまとめの意識を高めていく。
	○読書科の更なる充実	・探求的な学習活動を通して言語活動を充実 ・学校図書館や中央図書館を活用した調べ学習の推進	・生徒、保護者学校評価で肯定率９０％ ・SDGｓをテーマに調べ学習をすすめ、２年生は全国調べる学習コンクールに出品	B	B	B	・読書科、総合の連携で、成果物を完成する取組を継続していく。 ・図書館管理システムの円滑な運用と貸出冊数の増加、学習での活用をめざす。	B	今後も工夫して進めてほしい。	B	各階フロアーにミニ図書館を設置し、本に触れる機会を増やし、読書活動の充実を図った。	B	今後も工夫して進めてほしい。	生徒が気軽に本に触れることができる機会を増やす。
	○外国語教育の推進	ALTの効果的な活用と学び合いの場面を取入れた授業改善	全校・都・区の学力調査で、平均点以上	C	B	C	タブレット・ICT機器を活用し、ペア学習、グループ学習を効果的に取り入れている。 ・オクリンクを活用するなど様々な側面からアプローチを考える。	C	生徒に学ぶ喜びを教えてほしい。	B	ALTと連携し、放課後「スマイルイングリッシュくらぶ」を設置し、英語に親しむ機会を増やした。	B	生徒が学びたいと思う意欲を高める取り組みを続けてほしい。	次年度も開設を目指す。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	生徒・保護者学校評価で肯定率９０％以上	B	B	B	・体育祭のいろいろな場面で運動意欲の向上が伺えた。家庭での自主的な運動を推奨していく。 ・さらに運動意欲が向上する取組を考える。	B	生徒が生き生きとした体育祭が実施できていた。	B	武道に空手道を導入し、講師を招いて授業を展開した。生徒たちは意欲的に取り組めた。	B	積極的に新しい取り組みを行い、生徒の意欲を高めてほしい。	スポーツ庁の事業と連携し、来年度以降も継続していく。
		部活動の推進	５０％以上のブロック大会出場、３０％以上の都大会出場	C	B	C	・それぞれの部活動で課題をもって取り組めている。	C	今後も上位大会を目指してほしい。	B	サッカー部がブロック大会、剣道部が都大会に出場した。	B	今後も活躍を期待したい。	部活動ガイドラインに沿って上位大会出場を目指す。
		新体力テストの活用	全学年区内１０位以内を目指す	C	B	C	・運動の得意不得意がはっきり表れた。 ・基礎体力の向上を授業内で図る。	C	生徒が生涯にわたって健康的な生活を送ることができる体力を身に着けてほしい。	B	授業内で基礎体力向上を図ることができた。	B	健康的な生活を送るために続けてほしい。	区内１０位以内を目指し、体力向上を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取入れた個に応じた指導の実施・充実	・ICT、タブレット端末を活用した教員の授業力の向上、ICT関連研修・研究授業の実施	週１回生徒支援員会の開催での情報共有	B	B	B	生徒支援委員会を中心に対象生徒への支援・対応がより具体的に示すことができている。	B	今後も工夫して進めてほしい。	B	生徒支援委員会で情報共有を行い、具体的な支援・対応を図ることができた。	B	今後も工夫して進めてほしい。	L-gateを活用した生徒理解を進める。
	・エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介	B	A	B	サポート学習室を設け、教室に上がれない生徒の支援を行っている。	B	今後も丁寧な対応を進めてほしい。	A	サポート学習室内での生徒同士の関わりがふえ、登校意欲につながった。	A	今後も丁寧な対応を進めてほしい。	不登校巡回教員、別室指導支援員と連携を取り、生徒の登校意欲につなげる。
	・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・学校だよりや学年だより、行事案内の送付	・体育祭、合唱コンクール、校内作品展への参観・参加	B	B	B	副籍交流では学校だよりや学年だよりの送付、体育祭や合唱コンクールなどの行委への見学参加が行えた。	B	生徒一人一人に丁寧に対応している。	B	校内作品展に出品、見学を行うことができた。	A	校内作品展は充実していた。	対象生徒へのきめ細やかな対応ができた。継続していく。
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、部活動などの充実	生徒学校評価で肯定率８０％	B	B	B	専門委員会や中央委員会での活動を朝礼で発表している。 部活動での活躍も朝礼で表彰している。	B	生徒の良いところを伸ばしてほしい。	B	生徒が主体となって活動を進めることができた。	B	生徒が中心となって活動してほしい。	さらに充実した活動になる工夫をする。
	○hyper-QUの活用	・QUテストの生徒の実態把握に基づいた指導の推進	・年に１回校内でQU研修会を実施	B	B	B	hyper-QUの結果を受け、校内研修会を開き、共通理解を図ることができた。	B	生徒理解をこのまま進めてほしい。	B	２，３学期の始まりに生徒理解を図り、情報共有を行えた。	B	生徒理解をこのまま進めてほしい。	専門の講師を招き、研修を行い、生徒理解の促進を図る。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのＳＣ、ＳＳＷ連携率100％	B	A	B	SCの１年生全員面接やSSW、不登校巡回教員との連携を図ることができている。	B	今後も丁寧な対応で進めてほしい。	A	SCやSSW、不登校巡回教員と密に連携し、対応することができた。	A	今後も丁寧に生徒理解に努めてほしい。	コーディネーター、不登校巡回教員、別室指導支援員と連携し、不登校数の減少を図る。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	学校ホームページの充実	学校ホームページに日頃の教育活動を掲載し、保護者等が学校の様子を理解できる環境の整備	HP年間アクセス数９０，０００以上（昨年度87,135）	B	B	B	・ホームページでは日々の活動の様子を随時更新し、情報を発信している。 ・校外学習等の行事の様子や給食の献立はほぼリアルタイムで発信できている。	B	校内の写真ニュースやホームページの活動の様子はわかりやすい。今後も続けてほしい。	B	ホームページで日々の活動の様子や校外学習の様子を随時発信することができた。	B	校内写真ニュースは今後も続けてほしい。ホームページの活動の様子もわかりやすかった。	ホームページのアクセス数を増やすよう工夫する。
	学校関係者評価の充実	学校評議委員会の年２回の開催	学校評議員の肯定率９５％以上	B	B	B	・7月の第1回学校評議委員会を開催することができ、貴重なご意見をいただくことができた。	B	今後も学校の様子を教えてほしい。	B	道徳授業地区公開講座の協議会で評議員や保護者、地域の方から貴重なご意見を伺えた。	B	今後も学校の様子をいろいろな形で教えてほしい。	学校評議員会や協議会、アンケート等で貴重なご意見を伺い、学校運営に役立てる。
特色ある教育の展開	○働き方改革の推進	・校内掲示板やICT機器の積極的活用 ・定時退勤日の設定	・すべての会議等を１時間以内で実施 ・ライフワークバランスの推進を呼びかける	B	B	B	・職員会議資料をPDF化し、職員室で開催することによって時間の短縮を図っている。 ・C4th掲示板で職員間の情報を共有している。 ・定時退勤を積極的に呼びかけている。	B	このまま効率化を進めてほしい。	B	職員会議の時間短縮はできた。在校時間も減少傾向にある。	B	このまま効率化を進めてほしい。	見直しを図り、効率化を目指す。
	○GIGAスクール構想	・一人一台の学習タブレット端末の有効活用（ドリルパークの活用、コミュニケーションツールとしての活用）	生徒・保護者学校評価で肯定率９０％以上	A	A	A	・昨年度以上に、タブレットが教科の授業・総合的な学習、学活等さまざまな場面で活用されている。今後も工夫を続ける。	A	学習タブレットを今後も有効に活用してほしい。	A	どの教科でもタブレット端末を活用することができた。	A	学習タブレットの有効活用を続けてほしい。	効果的な活用方法を模索していく。